

お話と嘘の違いは？

眞鍋由比

「歴史やドキュメンタリーの記録は過去から学ぶことがあるから有意義なのは明白だけど、つくったお話になんの効用がある？僕はフィクションは読まないよ」

むかし、とある男の人に言われたことばです。あ、この人ダメだ。私と根本的に価値観が合わないわ。そう思いました。

『夜の庭師』 ジョナサン・オージェ著 創元推理文庫 2016は、貧乏で親とも離れ離れになってしまったアイルランドの幼い姉と弟が、イングランドにきて、村人のだれも近寄らない森のなかのお屋敷に奉公する話です。

お城のような豪華な屋敷にはうっそうとしげった木が寄り添うように立っていて、周囲が暗いくらい。そして住んでいる人物もみんな髪が真っ黒。お母様に構ってもらえない兄と妹、気位の高い上流階級のお姫様だった奥様、気の弱いご主人。足の悪い弟キップ（勇気という名の杖をもつ）としぶしぶ雇ってくれた館でメイドの仕事をするのですが、夜、気味の悪い影がうろつくのだった・・・。

火のように赤い髪のもりーとキップとは対照的な、昔は美しいブラウンの巻き毛の主人一家がなぜ黒い髪と真っ白な肌になってしまったのか。ご主人の両親はなぜ消えてしまったのか。そして大きな木の謎は？

自分の最も欲しいと願っているものが手に入るとしたら、あなたは何を願う？登場人物のそれぞれが願うものが切なくて、悲しい。ちょっと「猿の手」にも似ているかもしれません。もりーは話し上手で、どんなに苦しい状況でも弟やお嬢さんに楽しいお話をつくって聞かせます。

へスターという魔女のような語り部に質問されます、「お話と嘘の違いは何？」

「嘘は人を傷つける。お話は人を助ける」

そう。だからwhite lieもお話といえるかも。お話＝フィクションの存在意義はそれ自体を楽しむことや、それによって人生の真実を知ることではないでしょうか。文学や芸術って結局人生のメタファーだと思うんです。無意味なんかじゃない。

ディズニーが映画化を決定したそうなので、映画館でこの「お話」が近いうちに見られるはずですよ。

ところで、14日（火）13時から本校図書館で谷崎潤一郎の「秘密」の読書会を実施します。谷崎は神戸市東灘区の倚松庵に関西ではもっとも長く住んでいました。そこで『細雪』を書きました。谷崎の作品はフィクションは少なく、わりと現実に即した話が多いそうです。源氏物語の現代語訳が終わったところだったので、源氏のようにわたり廊下ですべての部屋に行き来できる設計を好んだそうです。（この間取り、映画「小さいうち」の昭和のプチブルジョワの家とほとんど同じだそうです）ステンドグラスや照明も間接照明だったり、とてもおしゃれな空間でした。土日の10時から16時しか開館していませんが、無料で『細雪』の世界が垣間見れます。先週行ったときは梅が美しかったのですが、庭には作品に出てくる花をできるだけ植樹したのでいつ行っても美しい花が見られます。蓄音機をかけながら五右衛門風呂に入る妙子とそれを注意する雪子を想像しながら、あるいは見合い相手の愚痴をユーハイムでぼやいている二人を思い浮かべながら、天気の良い日に一度行ってみることをおすすめします。

「秘密」はわずか30ページの短編です。気軽に参加してください。一般の方は前日までに電話かメールでご連絡ください。当日は谷崎ゆかりのスイーツをお出しする予定です。

